

平成16年度老人保健健康増進等事業報告書

(介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業)

介護家族から専門職まで人材育成のための
研修システムと教材開発に関する研究

「Web 学習機能を使用した 痴呆介護指導者学習支援事業」

報 告 書

平成 17 年 3 月

社会福祉法人 浴 風 会
認知症介護研究・研修東京センター
(旧 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター)

はじめに

平成 16 年度は、認知症ケアにおいて、エポックメイキングとなる年であったといえます。それは、「痴呆」という名称が「認知症」という名称に変更になったことです。名称変更の背景には、「痴呆」という名称が、侮蔑感を感じさせる表現であること、「痴呆」の実態を性格に表していないこと、早期発見・早期診断等の取り組みの支障になることといった理由が指摘されます。この理由を受け、「認知症」という名称に変更されたのです。

名称が変更されたことで何が変わるとか、と考える方々もいるかと思います。これは「変わる」のではなく「変えていく」ことが大切です。「痴呆」が有していたマイナスのイメージを払拭し、正しい理解、偏見のない理解がなされていくことが重要なのです。つまり、名称が変わっただけではなく、名称変更に伴い認知症ケアの考え方も、より良い方向に変わっていくことが重要です。その新たなスタートの年が、本年度であったといえます。

高齢者痴呆介護研究・研修センターも、平成 17 年 4 月より「認知症介護研究・研修東京センター」と名称変更がなされます。名称変更に伴い、より一層認知症ケアの質の向上と発展に寄与すべく、努力していく所存です。

ここに、平成 16 年度老人保健健康増進等事業のうちの介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業による報告書をお送りします。

本報告書の中で、一部名称において「痴呆」という表現を使用している場合がありますが、事業申請名称のためにそのような表記になっています。本文中は「認知症」と名称を改めて表記していますことご了承ください。

平成 17 年 3 月

=目 次=

本事業について	1
第1部 Web学習の施行と結果	3
1.Web学習の目的	3
2.Web学習の教材の概要と学習の流れ	3
3.モニターアンケート結果	8
4.Web学習試行の成果と今後の課題	21
第2部 システムの構築	23
1.システム開発の目的	23
2.システムの名称	23
3.システムの環境	23
4.システムの機能	24
5.システム運用結果	31
6.システムに関する受講調査結果	34
第3部 委員からの提言	41
1. Web学習の可能性～添削講師としての関わりより～	41
2. Web学習の有効活用のために～目的の明確化と学習展開の工夫～	44
3. Web学習の可能性と限界～何ができる、何ができないのか～	47
4. Web学習の可能性～新たな学習の機会と情報の手段として～	50
5. 添削機能の活用～受講生、添削者協働による学習内容の立案・企画を～	53
6. Web学習の可能性～Web機能を活かした指導者支援のツールとして～	57
第4部 全体総括－Web学習の課題と今後の方向性	61